

## 第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成18年11月22日(水) 5校時

児 童 4年2組 男7名 女16名 計23名

指導者 外 館 憲 子

- 1 単元名 調べて発表しよう
- 2 教材名 「伝え合う」ということ
- 3 単元について

### (1) 児童について

児童はこれまで、「新聞記者になろう」で伝えたいことをはっきりさせ、書く学習を、「伝言はまちがえずに」では正しく伝え合うための話す・聞く学習を行った。どちらも他者に伝えることを意識した学習内容である。さらに、伝え合う媒体の一つとして「ローマ字」を学習した。そして、朝の会の一分間スピーチで決められたテーマについて話すことや、係からのよびかけ等で伝える経験を重ねている。授業の中でも、意見交流の時間を確保してグループ学習では必ず自分の考えを友達に伝えるようにしている。その結果、友達の話喜んで聞くようになり、話し手としてだけでなく上手な聞き手としての態度も身に付いてきた。しかし、発言内容の共通点や相違点を聞き分けながら話し合う力は、まだ十分ではない。

### (2) 教材について

第3学年及び第4学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、「相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる」とである。この目標を達成するために、本単元では「ア 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと」や「イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること」の指導が必要となってくる。

本教材を学習することは、児童が初めて点字という文字に出会い、点字なしには自ら本を読むことのできない人の存在を知り、思いやるきっかけとなるものである。同時に、自分達にとって文字情報が非常に大切であり、知らず知らずそれに依存していることに気づく機会でもある。あらゆる条件の人とも伝え合いたいという願いや、情報弱者を作らないという意志が芽ばえ、「伝え合う」ということを考える良い機会になるであろう。

### (3) 人権教育の観点から

#### ① 人権理解にかかわって

障害者理解について、児童はこれまで真剣に考えたことがなかった。身近に障害者がいるわけでもなかったし、障害者に限らず自分以外の人の生活や考え方を知ろうとする機会も少なかったからである。しかし児童は最近、道徳の資料やテレビの特集番組等で障害者の方々の存在を知り、関心を持ち始めている状況にある。それは、世の中の様々な人々とかかわっていかうとする意識の芽生えであろう。そこで本単元では、視覚障害をもつ人に焦点を当て、目が見えなくても点字という手段があれば、思いを通じ合わせることができていることに気付かせ、心を「伝え合う」ということが人間にとっていかに大切なものなのかを考えさせたい。そして、どんな条件の人とも伝え合って支え合って生きていこうとする姿勢を育てたい。

#### ② 育てたい力について

##### 「思考力・判断力」にかかわって

「手と心で読む」という資料を読む活動から「発表会」を開くまで、「伝え合う」ということはどういうことなのかを常に意識した学習活動を展開させる。そして、伝え合いの手段としての点字の有効性について気付かせたい。

##### 「受容力」にかかわって

「伝え合う」ということは、児童にとって難しいテーマであると考えている。そこで、お互い

の考えを出し合い、交流させる時間を十分にとりたい。グループでの話し合いで、どの友達の考えもよく聞き、新しい発見ができるようにさせたい。

「表現力・行動力」にかかわって

「伝え合う」ということについて調べたり考えたりしたことを発表し合い、交流することによってもの見方・考え方を広げさせたい。そして、分かり合い伝え合うために、できることから行動に移していこうとする態度を育てていきたい。

(4) 指導にあたって

本単元は、資料「手と心で読む」をきっかけに総合的な学習「やさしさ広げよう」を展開した後で、自らが体験したことをもとにして、児童一人一人が「伝え合う」ということについて深く考える単元とする。そのために、単元の初めに、自分達はどのようにして情報を得たり意思を伝えたりしているのかを振り返らせ、それがあらゆる人にも通用する手段なのかを投げかけたい。資料「手と心で読む」をきっかけに、伝え合うことができる喜びをあらゆる人に感じてほしいと思う気持ちを育てたい。

4 単元の目標

- 伝え合い分かり合うにはいろいろな方法があることに気づき、調べたり考えたりしたことを聞き手に分かりやすく伝えようとしている。(関・意・態)
- ◎伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。(話・聞ア)
- 互いの考えの相違点や共通点を考えながら進んで話し合うことができる。(話・聞ウ)
- その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すことができる。(言ア(ア))

5 単元指導計画(10時間)

段階	学習内容	評価規準		
		関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語事項
第一次	1 単元のねらいをつかみ、学習の計画を立てる。 資料「手と心で読む」を読み、感想をもつ	自分がどんな手段で情報を伝えたり得たりしているかを考えながら、学習の見通しをもとうとしている。		
	2 新出漢字・難語句の学習をする	漢字や語句の学習に進んで取り組んでいる。		
	3 「手と心で読む」の内容について話し合う ①	写真や点字のページを利用して、点字についての説明を読み取ろうとしたり、心のふるさとを失うことについて考えようとしている。	筆者が心のふるさとを失うように思えたことについて、考えをまとめ、発言内容の共通点や相違点を聞き分けながら話し合うことができる。	文と文とのつながりを考えて話したり聞いたりすることができる。
	4 「手と心で読む」の内容について話し合う ②(本時)	筆者と点字の出会いについて、「伝え合う」ということを考えながら読もうとしている。	筆者にとって点字とはどのようなものなのか、考えをまとめ、発言内容の共通点や相違点を聞き分けながら話し合うことができる。	文と文とのつながりを考えて話したり聞いたりすることができる。

段階	学習内容	評価規準		
		関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語事項
第二次	5 6 発表に必要な資料を収集し、発表のシナリオを作る	伝えたいことを明確にして、資料収集やシナリオ作りをしようとしている。	集めた情報が必要かどうか考え、選択し、伝えたいことが明確になるようなシナリオを作ることができる。	
	7 分りや本日の発表の仕方を学習し、練習をする	聞き手に自分の考えが伝わるように工夫しようとしている。	伝えたい事を自分の考えが分かるように筋道を立てて話すことができる。	聞き手を見て、適切な音量や速さで自分の考えが分かるように話すことができる。
	8 9 「伝え合うこと」発表会を開く	調べたり考えたりしたことを分かりやすく発表しようとしている。	伝えたい事を自分の考えが分かるように筋道を立てて話すことができる。	聞き手を見て、適切な音量や速さで自分の考えが分かるように話すことができる。
第三次	10 学習のまとめをする	学習を振り返り、「伝え合う」ことについて感想を交流しようとする。	学習を振り返り、「伝え合う」ことについて、発言の共通点や相違点を聞き分けながら進んで話し合い、自分の考えを確かに行うことができる。	文と文とのつながりを考えて話したり聞いたりすることができる。

## 6 評価規準

観点	A 十分満足	B 概ね満足	Cへの支援
関心・意欲・態度	伝え合うことについて自分の考えをもちながら調べたり意見を交流したりしてまとめたことを聞き手に分かりやすく伝えようとしている。	伝え合いにはいろいろな方法があることに気づき、調べたり考えたりしたことを聞き手に分かりやすく伝えようとしている。	グループの友達と共に調べたり話し合ったりする中から「伝え合う」という言葉の意味を考えさせる。
話すこと聞くこと	発言の共通点や相違点を聞き分けながら話し合い、友達のよいところを取り入れて伝えたい事を選び、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。	発言の共通点や相違点を聞き分けながら話し合い、伝えたい事を選び、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。	資料を読んだ感想や、グループの友達と共に調べたことの感想を書きためておき、それをもとに話すようにさせる。そして、友達の考えが自分と同じか、違うかに気付かせる。

7 本時の指導

(1) 目標

資料「手と心で読む」から、筆者と点字との出会いについて読み取り、筆者にとって点字が「伝え合う」手段としてかけがえのないものであることについて、発言内容の共通点や相違点を聞き分けながら話し合うことができる。

(2) 人権教育の観点から

障害者理解を深めるために、本時はまず、資料「手と心で読む」の筆者である大島さんが失明し、それまで親しんでいた文字と離れなければならなかった思いを想起させる。次に、筆者が点字と出会うことで伝え合う手段を無くしてしまった悲しみから開放され、生きる希望をもつことができることを読み取り、「伝え合う」ということの大切さを考えさせたい。

また、グループ学習においては、友達の考えを受け入れ、それに対する自分の考えを交流し合えるよう、支援する。

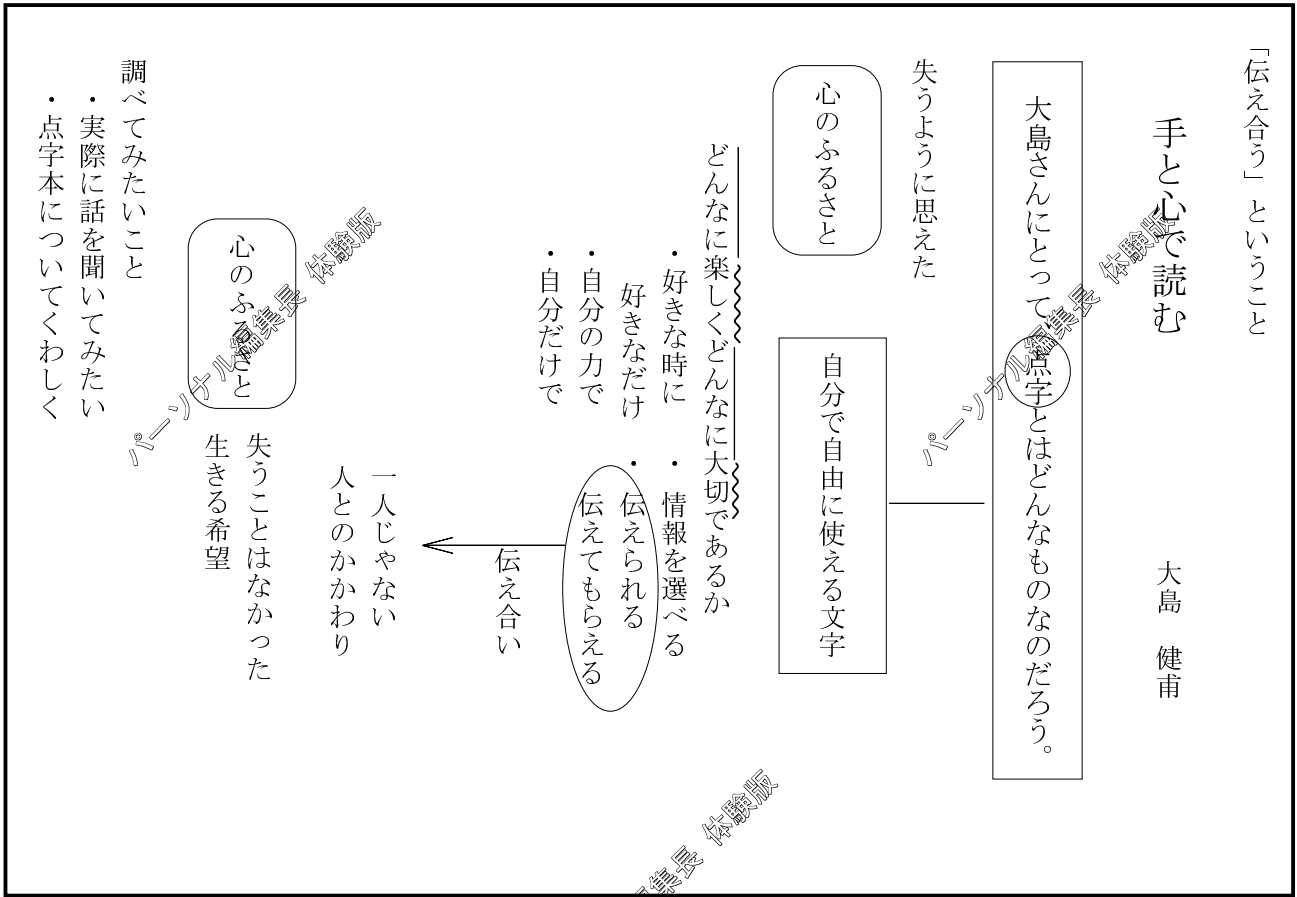
(3) 展開 (4/10時)

段階	学習活動	予想される反応 指導上の留意点・支援 (☆)	評価 (□) 人権教育の観点 (◎)
つかむ  6分	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     大島さんにとって、点字とはどんなものなのだろう。                 </div> <p>音読 指名読</p>	<p>☆大島さんが点字と出会う前の思いを想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで読んだり書いたりしていた文字と離れるなんて想像もつかない。</li> <li>・いやだいやだ。これからどうしたらいいのか。</li> <li>・まるで心のふるさとを失うように思えた。</li> </ul> <p>☆心のふるさとを失った大島さんにとって、点字がどのようなものなのかを意識付ける。</p> <p>☆課題について考えながら読むようにさせる。</p>	<p>◎大島さんが点字と出会う前の思いを想像・共感したことを発表させる。</p> <p style="text-align: center;">&lt;受容力・思考力&gt;</p> <p>□前時の学習を想起できたか。(観察)</p> <p>□学習課題が把握できたか。(観察)</p> <p>□学習場面が把握できたか。(音読 観察)</p>
考える	<p>3 「文字を自由に使える」とは、どのようなことなのか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     自ら考えの場                 </div>	<p>☆「文字を自由に使える」ということについて一人一人が考える時間を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰の助けもなしに自分の力で読める。</li> <li>・好きな時間に好きなだけ読める。</li> <li>・情報を選んで読める。</li> <li>・書き表したいことが書ける。</li> <li>・手紙や日記など、自分の心を書き表すことができる。</li> <li>・話さずに誰かに何かを伝えることができる。</li> <li>・誰かからも何かを伝えてもらえる。</li> </ul>	<p>◎筆者の立場で考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">&lt;思考力・判断力&gt;</p> <p>□「文字を自由に使える」ということを考えることができたか。(ノート)</p>

<p>考 え る</p> <p>深 め る</p> <p>35 分</p>	<p>互いに認め合う場</p> <p>4 大島さんにとって点字とはどのようなものなのか話し合う。</p> <p>5 自分がさらに調べてみたいことを考える。</p>	<p>☆グループで自分の考えを出し合い、考えを広げさせる。</p> <p>☆自分の考えと友達の考えの共通点や相違点だけでなく、複数の発言の共通点や相違点を聞き分けながら話し合うことを意識付ける。</p> <p>・大島さんにとって点字は、自分で自由に使える文字であり、伝え合うための大事な文字だ。</p> <p>・見えていた時に使っていた文字が使えなくても、伝え合うことができるのは、点字のおかげだ。</p> <p>・もう以前のように人と伝え合うことができなと思っていたのに、点字は希望を与えてくれた。</p> <p>・失ったと思った心のふるさとをもう一度得たような気持ちになった。</p> <p>☆点字と出会う前と後を比較させながら、「心のふるさと」という言葉に着目させ、点字の役割について意見交流をさせる。</p> <p>・実際に点字を使っていてどうか。</p> <p>・どれくらいの点字本があるのか。</p> <p>・だれが点字本を作っているのか。</p> <p>・点字の他にも伝え合いの方法はあるのか。</p> <p>☆点字の役割を理解した上で「伝え合うこと」を意識した調べ学習ができるように考えさせる。</p>	<p>□自分の考えを筋道立てて話すとともに、お互いの考えの共通点と相違点に気付くことができたか。(観察)</p> <p>◎友達と意見交流をする中で、ものの見方・考え方を広げるようにさせる。</p> <p>＜受容力・表現力＞</p> <p>◎「伝え合う」ことへの希望が湧いてきた様子を感じ取りさせる。</p> <p>＜受容力・思考力＞</p> <p>□課題について自分の考えをもち、友達の考えと比べながら話し合いに参加しているか。(観察)</p> <p>◎大島さんの身になって点字のもつ意味を考えさせる。</p> <p>＜受容力・思考力＞</p> <p>◎友達と意見交流をする中で、ものの見方・考え方を広げるようにさせる。</p> <p>＜受容力・表現力＞</p> <p>□さらに調べてみたいことを考えることができたか。(ノート)</p>
<p>ま と め る</p> <p>4 分</p>	<p>6 学習を振り返り、本時のまとめをする。</p> <p>学習を振り返る場</p> <p>7 次時の予告をする。</p>	<p>☆自己評価をさせた後、学習課題について、自分の考えと友達の考えを比べて気が付いたことや、なるほどと思ったことを発表させる。</p> <p>☆次時は発表のシナリオ作りをすることを告げる。</p>	<p>□学習課題について振り返ることができたか。(ノート・発言)</p> <p>◎意見交流によって考えが深まったことを発表させたい。</p> <p>＜思考力・表現力＞</p>

(4) 評価

資料「手と心で読む」から、筆者と点字との出会いについて読み取り、筆者にとって点字が「伝え合う」手段としてかけがえのないものであることについて、発言内容の共通点や相違点を聞き分けながら話し合うことができたか。



パーソナル編纂長 体験版

パーソナル編纂長 体験版